

# ULT通信

2016.9.20号 / vol. 65 発行 / ULT 図書館司書

ULT通信2学期第1号です。文化祭やら体育祭やら、様々な行事が盛り沢山で慌ただしい2学期ですが、ULTは毎日いつも通りの時間に開館しています。ほっと一息つきたい人お待ちしています。

## まだまだ興奮は醒めない! スポーツ本特集

♪きみ~だけ~の~た~め~の~ヒーロー♪ (by 安室奈美恵「Hero」) …そうです。今年は4年に1度のオリンピック・パラリンピックの年! 日本人選手が多数メダルを獲得し、大健闘していましたね! 時差もなんのそので早起きして応援していた人も多いのでは? 世界のスポーツの祭典が終わった後は、浦学のスポーツの祭典“体育祭”が控えています。そこで、今回はスポーツにまつわる本を紹介します。



『一瞬の風になれ①~③』  
佐藤多佳子・講談社



『たまごを持つように』  
まはろ三桃・講談社



『バッテリー①~⑥』  
おさのおつこ・角川書店



『DIVE!! 上・下』  
森絵都・角川書店



『サッカーボーイズ 再会のグラウンド』  
はらだみずき・角川書店



『風が強く吹いている』  
三浦しをん・新潮社



『武士道 シックスティーン』  
菅田哲也・文芸春秋



『ライバル』  
川上健一・PHP 研究所



『かもめ高校 パドミントン部の混乱』  
朽葉屋周太郎・アスキーメディアワークス



『動物学科 空手道部1年 高田トモ!』  
片川優子・双葉社

### 番外編その1

### 番外編その2

『スラム・ダンク 1~24』  
井上雄彦・集英社

『ピンポン 1~5』  
松本大洋・小学館

ここでは漫画をご紹介します。まず『スラムダンク』です。リオでは、女子バスケットチームが見事上位国を倒す大金星。男女ともにメダル獲得した卓球の名作は松本大洋の『ピンポン』です。五輪では、退場させられても声援を送る石川佳純選手の姿が微笑ましかったですね。

小説、漫画以外の本をセクション。まず、男子テニス祝銅メダルということで錦織圭。長年彼を取材してきた記者の目を通して成長の軌跡を辿ります。そして、『ファイブ』はリストラされ、新たなチームに集ったバスケット選手たちのドキュメント。

『ファイブ』  
平山謙・NHK出版

『ダウン・ザ・ライン 錦織圭』  
錦織圭ほか・朝日新聞出版



ULTに入って左手の同窓会コーナーには、部活本コーナーがあります。運動部、文化部それぞれに関連した本が置いてあるので、棚を見てください。

次回の五輪開催地はいよいよ東京です。選手として、ボランティアとして、応援する人として、皆さんが主役の大会です!

## ULT NEWS

●図書委員が選んだ“健康と安全に関する本”館内展示中!

1階展示棚では「健康と安全」をテーマに、図書委員会が選んだ本が展示中です。身の回りの防災から心身の健康についてまで、幅広い視点から選ばれた本達です。貸出もできますので、ぜひ手に取ってみてください。



# 新着案内

7・8月の新着はちょっと少なめ23点です。

↓話題の「君の名は。」小説版入りました。

タイトル	著者	請求記号
スパイクス	あさのあつこ	913.6-アサ-2
レーン	あさのあつこ	913.6-アサ-3
ポーラスター：ゲバラ覚醒	海堂尊	913.6-カイ-1
小説 君の名は。	新海誠	913.6-シン
怒り(中公文庫) 上	吉田修一	913.6-ヨシ-1
怒り(中公文庫) 下	吉田修一	913.6-ヨシ-2
帰ってきたヒトラー(河出文庫) 上	ティムール・ヴェルメシュ	943.7-Ve-1
帰ってきたヒトラー(河出文庫) 下	ティムール・ヴェルメシュ	943.7-Ve-2
夜を乗り越える	又吉直樹	904-マタ



タイトル	著者	請求記号
人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの	松尾豊	007.1-マツ
戦地の図書館 海を越えた一億四千万冊	モリー・グプティル・マニング	019.0253-Gu
大学受験勉強法受かるのはどっち?	笠見未央	376.8-カサ
マドンナ永遠の偶像(アイコン)	ルーシー・オプライエン	767.8-Ma
何を書けばいいかわからない人のための小論文のオキテ55	鈴木鋭智	816.5-ス

←今知りたい情報が  
見つかるかも。



## コラムdeレレ



第65回は菅木が担当です。テーマは「ワタシのアイドル」。

前回の高橋さんに引き続き、わたしも感動したライブのお話です。

みなさんは“KING OF ROCK” 忌野清志郎を知っていますか？ 派手な服装にメイク、細い体から絞り出すように独特のしゃがれ声で歌い、「雨あがりの夜空に」や「トランジスタ・ラジオ」など数々の名曲を生みました。「デイ・ドリーム・ビリーバー」は今もセブンイレブンのCMでお馴染みですね。70年代から活躍し続けた清志郎さんは、2006年、咽喉がんのため音楽活動を休止します。最近ではつくみさんが同じく咽喉がんを患い声帯摘出手術を受けたことが話題ですが、清志郎さんは歌えなくなることを避けて、手術以外の治療法を選択しました。

わたしは療養期間中に清志郎さんの音楽にはまって、もっと早く好きになっていればライブに行けたのに、と悔みました。そんな中なんと、忌野清志郎全快というニュースが！ 活動休止の翌年のことで、全快なんてとても信じられない。けれど「忌野清志郎 完全復活祭」の開催も告知されました。ライブ当日は、360° 観客席の日本武道館が超満員。オープニングでは抗がん剤のためか禿げ頭になった清志郎さんの写真がスクリーンに映し出され、日付が新しい写真に差し替わるたびに徐々に髪の毛が増え、療養前の清志郎さんの姿に戻っていくようです。そしてついにステージに本人登場！ 病気が嘘であったかのような力強い歌声に圧巻のパフォーマンス、「完全復活」を信じさせてくれるライブでした。しかしそれから半年ほどして、がんの転移がわかり再び療養へ…。二度目の復活は叶わず、2009年5月2日、訃報が伝えられました。武道館ライブは私にとって、清志郎さんの最期の時にぎりぎり間に合った、奇跡のような出来事でした。

さて、清志郎さんは本も残しています。『瀕死の双六問屋』は、男の独白形式の、コラムとも小説とも形容しがたい短編の連なりです。シチュエーションは唐突で、ストーリーがあるわけでもなく、書かれていることの意味が全部はわからないのに、ものすごくおもしろいと感じる。音楽理論を知らず歌詞が理解できなくても曲を楽しめることと、似ているような気がします。言葉のセンスや文章のリズムが最高で、短編の最後を締める「失礼する。また会おう！ しばらくは君の近くにいるはずだ」という文章など、カッコよさにくらくらして、私にとって清志郎さんはアイドルみたいな存在です。

今回は11月の読書月間の前になるので、企画の紹介を兼ねて、展示作品の中から思い入れの強いものを紹介してください◎